

国大 秋関で大活躍 AR団体・SB伏射団体 全日本の出場切符！ W獲得なる！



写真は秋関最終日のSB伏射団体大将戦で、自己ベストの575点を積み上げて、国大の全日本学生ライフル射撃選手権大会「伏射団体戦初出場！」を確実なものにした田中健太郎選手。(団体順位は歴代最高位の7位、獲得点数1691点は本學新記録)

平成13年度秋季関東学生ライフル射撃選手権大会は9月5日から4日間、神奈川県伊勢原ライフル射撃場第一射場で、関東24大学477人の選手が参加し開催された。

大会初日、団体AR・S60に出場した長浜選手(2年)は、イキナリ本學歴代記録だんとつトップの569点をマークした。本學としては過去に例を見ないトビッキリ上等のすべり出しとなった。続くのは森永選手(2年)、関東大会団体選手として初の参加ではあったが、ほぼ持てる力を出し、結果的には戦況変化における責任点数をキチンと計上してくれた。団体AR・S60のラストシューターとして出場したのはベテランの域に入った角田選手(3年)である。安定度の高い角田は、かかるプレッシャーをはねのけて本學歴代記録6位タイの547点也をシッカリと撃ち上げ、国大をAR団体戦10位(歴代最高位、獲得点数1636点は本學新記録)と全日本学生AR団体戦出場(12年ぶり)に導いた。

団体SB三姿勢初日は山田選手(2年)が出場した。山田はSBを所持して一ヶ月、撃ち始めは夏合宿からという赤ちゃん選手であった。8月の予選は何とか通過したものの、本戦でいったい何点出るかが部員全員の心配事ではあった(国大の台所事情が伺える)。彼は、持ち前の明るさと、真面目さで60発を撃ち終えた。果たして「ワッハッハアアア」と笑っていたが、来年にはきっと強力な選手に成長している事であろう。SB三姿勢二番手には新主将の西選手(3年)が創部七十周年記念銃を携えて登場した。西は本學射撃部で柔道をやらせたら一等強いが、どうやら射撃はそうもいかないらしい。しかし西は、昨年来得意の粘り腰で射撃に励み、試合ごとに着実に点数を伸ばしてきた実績の持ち主であり、大器晩成型を想わせる。

大会三日目、SB団体三姿勢ラストヒットマンの足達選手(3年)は、実力を見事に発揮して自己記録を更新、538点を記し本學歴代記録2位タイの位に輝いた。「足達は決める時は決める」を実証した。

(後日、全日本個人出場権獲得の報が入った。)

団体SB伏射戦は、平井選手(3年)が先鋒として出場した。平井は自他ともに認めるAR伏射並びにSB膝射の神様であるが、今年に入ってSB伏射の力もドンドンついてきたので「580点は出るだろう！」との希望的推測が部員の中に浸透していた。が、残念553点に留まった。とにかく団体選手としての責任を果たした彼には、今後は伏射の鬼になる事を期待したいものだ。中者選手(4年)は、今回はセカンドヒッターとして参戦した。中者は現役で最後の秋関となるこの伏射競技で善戦敢闘、自己記録を春関に続き更新する563点をひねり出した。大会四日目、昨年秋関の個人的リベンジに成功し更に本學歴代記録3位に輝いた田中選手の健闘ぶりを見届けた中者は、ふと射場から出て紺碧の空を見上げた。その時、光るのが一筋、頬をつたわった。そして彼は心の中で叫んでいた「やった！ やった！ 皆よくやった！ ご苦労さん」。

今大会、本學の補欠選手・腰痛をおして個人エントリーした選手・その他の個人選手も大いに力闘し、国大射撃部の今後の展望を更に明るく示してくれた。

尚、一年生は全員予選落ちとなったが、彼等は生物学者を始めとして剣道、弓道、水泳、野球、卓球とそれぞれの道の達人である。今後、その経験が射撃に生かされる事を期待し、一生のうち四年間を勝負師として生きようと心に決めている彼等に大きな声援を送りたい。

注：本學は過去にも全日本大会団体戦出場の実績があるが、その多くは無条件で出場できるものであった。学連登録校が増えた現在では成績等きびしい制限がある。その中で、初の種目別団体戦の出場権獲得となった。

2001.9.8



秋関競技終了後、まずSB伏射チームの全日本出場決定の報に歓喜する選手達、前列4人が伏射チーム。右から平井、田中、石伊、中者の面々と監督。後列右から山田、北林、長浜、大本、飯塚、西。